

土佐湾ホエールウォッチング育成事業（要旨）

漁 業 科 石 井 功

平成6年度から3ヶ年事業で土佐湾西部海域を対象として水産試験場調査船「土佐海洋丸」を使用したニタリクジラを主対象とした鯨類の目視調査と、地元大方町、佐賀町の遊漁船主会を構成メンバーとする「土佐湾ホエールウォッチング推進協議会」による標本船の生態調査等により、ホエールウォッチングと漁業との係わり等を検討し、両者の健全なる発展を目途とし、初年度の調査を行った。その概要は次のとおりであった。

1. 土佐海洋丸の調査は年に4回（春、夏、秋、冬）実施した。その結果ニタリクジラはほぼ周年土佐湾西部の距岸15マイル内に生息し、春から夏にかけて来遊量が増加するとともに沖合域に広がる事が確認された。
2. 標本船調査の結果も同じ様な傾向を示し、親子連れ等も確認された。

3. 冬季における分布は既知の文献等から北緯28°以南とされていたが、高知沖（北緯33°）で分布していることは大きな収穫であった。
4. 上記調査とは別個に遠洋水研が夏季に土佐沖～薩南域にかけてニタリクジラの目視調査を実施し、分布は沿岸から沖合15マイルまで限定されており、黒潮流域には見られなかった。既知の文献により、当クジラは北西太平洋群と東シナ海群が知られており、これらの前記の結果と照らし後記群ではないかと思われる。今後の調査が期待される。

*1995年度土佐湾ホエールウォッチング育成調査事業報告書－高知県既報のため要旨とした。